

迫り来る東海・東南海・南海の巨大地震

前回よりの続き・・・

想定日時 2012年12月13日(木) 13時

M9の巨大地震が発生

「加古川では震度5強～6弱程度の揺れを感じた」

シリーズ 「災害への想定」 Story6

・・・さて、ライフラインも確認できました。「おや、近所で助けを呼ぶ声がします。大変だ！」

今回は、「**命の救助**」について考えてみましょう。

地震の揺れにより、マンションでは家具転倒や天井材落下、閉じ込め等が起こり、戸建では家屋倒壊により下敷きになっている人等、「救助」を考えなければなりません。やはり一人に対処するには限界があるので、可能な限り大勢で早く多くの機材・資材を調達し、組織的な救出活動を開始する必要があります。

では、場面別の救出方法について考えましょう。

◇使用する資機材の紹介◇

かなづち・ハンマー・おの・のこぎり・バール(大)・太さ10cm以上の角材・太さ5cm以上の鉄パイプ・支点となる堅い角材・自動車用ジャッキ・油圧ジャッキ等

【タンス等の転倒家具からの救出】

救出の手順

- ①声をかけて安心させる
- ②上に乗っているものを取り除く
- ③てこやジャッキで隙間を作る
- ④できた隙間を角材で補強する



ワンポイントアドバイス

- ・転倒物を破壊する場合は、はさまれている人に注意を払うことが大切です
- ・転倒した家具の背部(裏面)をカッターナイフ等で切り抜き、そこから引き出しや内部の物を取り出して可能な限り軽くする



※家具の背板は薄い合板材で出来ている場合が多く、大きめのカッターナイフやノコギリで容易に切り抜くことができます。

【閉じ込められている場合】

救出の手順

- ①声をかけて安心させる
- ②閉じ込められている人数を確認
- ③てこやジャッキで隙間を作る
- ④できた隙間を角材で補強する
- ⑤中にいる人にけがをさせないように、作業しやすい部分から破壊する



ワンポイントアドバイス

- ・柱等の切断による崩れや倒壊に注意する

※長時間の閉じ込めで「暗闇」からの救出時の注意点

- ・救出時にはタオル等で目隠しをする
- ・外光には徐々に慣らし、目隠しは一気に外さない！

【ドアに挟まれた人・ドアが開かない場合の救出】

この場合「バール」が非常に役立ちます。

エンジンカッター等は火花が出るのでガス漏れの可能性が疑われる時には絶対に使用してはいけません。

救出の手順

- ①挟まれている箇所、姿勢を確認する
- ②隙間をバール等で広げる
- ③クサビ等をいれて徐々に広げる



ワンポイントアドバイス

- ・チェーンロックは大型クリッパーで切断する
- ・木製ドア等の構造によっては解体する
- ・挟まっている人の姿勢を変えれば外れる場合がある
- ・中で人が動ける場合は必ず開錠しておく
- ・ベランダの隔壁を破壊し隣宅へ避難させる

◆役立つ自家用車のジャッキ◆

ジャッキ使用時の注意点！

- ・ジャッキをかけるところが壊れやすい場合は当て木をする
- ・操作中にジャッキが横へずれたらすぐに作業停止する
- ・持ち上げられないときは無理に操作しない
- ・持ち上げた箇所にあて木で補強してから中に入る



◇長時間身体を挟まれていた場合「クラッシュ症候群(挫滅症候群)」を疑え！◇

突然死に至るクラッシュ症候群の過程としては、瓦礫等で挫滅した筋肉から発生した毒性物質が、救出による圧迫開放で血流に乗って全身に運ばれ、臓器に致命的な損害を及ぼし、死亡やその他重篤な症状になるものです。

○クラッシュ症候群の簡単な見分け方○

- ・2時間以上挟まれている(筋肉壊死の時間的目安)
- ・挫滅部位がパンパンに腫れたり点状に出血している
- ・茶褐色(ワインレッド色)に変色した尿が出る
- ・挟まれた部分の感覚がない
- ・挟まれた部分が動かない

もし上記の兆候が見られた場合、直ちに、災害拠点病院か血液透析ができる病院へ搬送します。また、**クラッシュ症候群が疑われる傷病者には、水分補給や止血帯法を応用することで、挫滅部位から毒素を全身へ拡散させない様にする**ことが重要です。

災害時には、いろんな状況で判断を迫られるので、日頃から感心を持つことが必要です。**災害発生時は、誰もが被災者です。「みんなで力を合わせて救助にあたりましょう」。**もしも、あなたの家族がと考えた場合、あなたは傍観者でいるつもりですか？

「おや、エレベーターで誰かが閉じ込められているようだ」
次号に続く